1. 雪の初日．雪の終日．積雪日数．最深積雪
   霜の初日．霜の終日．霧日数．雷日数
2. 最高気温０℃未満の日数．最低気温０℃未満の日数
   最高気温25℃以上の日数．最高気温30℃以上の日数
   そめいよしのの開花日．いろはかえでの紅葉日
   もんしろちょうの初見日．うぐいすの初鳴日
3. 各地の気候特性

1. 雪の初日．雪の終日．積雪日数．最深積雪 霜の初日．霜の終日．霧日数．雷日数

気象観測では、大気中に少しでも雪が観測された時に降雪と記録される。

年間最高気温が記録されて以降の降雪の記録の最も早い日が雪の初日で、その最も遅い日が雪の終日である。雪の初日が最も早い地域、終日が最も遅い地域は共に北海道東部である。

雪の初日から終日までの期間は、北海道北部では半年を超えるが、九州南部では１月に満たない。降雪の記録の南限は、奄美大島である。

積雪日数は、降雪により堆積した雪が地表の半分以上を覆った状態の日数である。

最深積雪は、地表に堆積した雪の深さの年間の最大値をいい、北陸から東北にかけての山岳部で大きく４ｍ以上になる。

霜の初日は、北海道で早く、太平洋・日本海の沿岸地域が最も遅い。霜の終日は、沿岸地域で早く、関東から北海道にかけての内陸地域で遅い。

気象観測において霧とは、大気中に小さな水滴が浮遊していて、水平方向の視界が１㎞未満になる現象である。霧は大気の水蒸気が冷却した時などに発生し、その冷却要因によって放射霧・移動霧・前線霧に、また、発生場所によって盆地霧・山霧・川霧・湖霧・海霧・都市霧などに分類される。

年間霧日数は、山岳部（ほぼ通年）、盆地（秋から初冬）、東北の太平洋沿岸地域（春から秋）などが多く、南西諸島ではほとんどない。

雷は、積乱雲の発生で気流が激しく上昇した時など、大気の状態が不安定になると狭い地域に起こる局地的現象で、発生から消滅まで平均１時間以内である。雷は、発生要因により熱雷・界雷・渦雷などに分類される。

年間雷日数は、冬期の北陸や東北の日本海側および夏期の関東内陸部や九州南部に多い。

〔凡例と作図の要点〕

雪の初日、雪の終日、積雪日数、最深積雪、霜の初日、霜の終日、霧日数、雷日数は、1951年から1980年における国内各地の気象官署の観測値による平年値である。平年値は、日観測値から求める。

〔主な資料〕

1．気象庁，1982年日本気候表　その2　地点別月別平年値（1951～1980）
2．気象庁，1980年版日本気候図

2. 最高気温0℃未満の日数．最低気温0℃未満の日数 最高気温25℃以上の日数．最高気温30℃以上の日数 そめいよしのの開花日．いろはかえでの紅葉日 もんしろちょうの初見日．うぐいすの初鳴日

気温は、季節指標としてよく用いられ、特定の気温に達した日を真冬日、冬日、真夏日、夏日などと呼んでいる。

最高気温０℃未満の日は、真冬日と呼ばれ最も寒い日の指標となっている。真冬日は、北海道では平年値が80日を超えるところもあるが、関東以西の太平洋沿岸や瀬戸内海沿岸の一部などでは、一度も観測されていない。

最低気温０℃未満の日は、冬日と呼ばれる。冬日は、南西諸島や伊豆諸島南部の離島を除いてほぼ全国に現れる。北海道や本州の山岳部は100日を超えることが多く、また、沿岸部では内陸部よりかなり少ない。

最高気温25℃以上の日は、夏日と呼ばれほぼ全国に現れる。特に西日本以南に多く、沖縄では180日を超える。また、北海道北部や東部では、10日に満たない地域もある。

最高気温30℃以上の日は、真夏日と呼ばれ暑い日の指標となっている。

真夏日は、北海道ではほとんど10日未満であるが、関東以西では山間部を除いて30日を超え、大阪など西日本の一部や南西諸島では60日を超える。

動植物の発生・生長は、気温などの気候環境から強い影響を受ける。身近な特定植物の初芽・開花・紅葉・落葉あるいは特定動物の初見・終見・初声・終声などの観測によって示される生物季節は、より実感に近い気候の変化や季節感を与える。

そめいよしのは、桜の一種で、ほぼ全国に分布し、市街地・集落・公園・堤防などにも植えられている。同じ地域にある木々は、開花期がほぼ揃っているので指標植物として適している。そめいよしのの開花日は、２分咲きとなった日とされている。九州や東京以西の太平洋沿岸の開花日は３月下旬で、約40日かけて北上し、北海道での開花日は５月上旬である。

いろはかえでは、かえで科の落葉高木で、一般にもみじと呼ばれている。

紅葉が美しく、ほぼ全国に分布し、公園や庭園などにも植えられている。

また、同じ地域にある木々は紅葉期がほぼ揃っているので、指標植物として適している。

紅葉は、霜の降りる前の一時期に高緯度地域や山岳地帯などで早く、北海道北部では10月上旬、中部地方の山岳部では10月中旬で、関東以西の太平洋沿岸では11月下旬である。

もんしろちょうは、しろちょう科の一種で、ほぼ全国に分布し、都市の中でも見られる。蝶は蛹で越冬し、早春には同じ地域でほぼ揃って羽化するので指標動物として適している。南九州での初見日は、２月下旬で、約70日かけて北上し、北海道北部・東部での初見日は５月上旬である。

うぐいすは、ひたき科の鳥で美しい声で鳴き、全国に分布し、平地林の中でも見られる。初夏から秋にかけて山で過ごすが、冬から春にかけて里に降り、早春には一斉に鳴き出すので指標動物として適している。

南西諸島の初鳴日は、２月上旬で、約90日かけて北上し、北海道東部の初鳴日は５月上旬である。

〔凡例と作図の要点〕

最高気温０℃未満の日数、最低気温０℃未満の日数、最高気温25℃以上の日数、最高気温30℃以上の日数は、1951年から1980年における国内各地の気象官署の観測値による平年値である。また、そめいよしのの開花日、いろはかえでの紅葉日、もんしろちょうの初見日、うぐいすの初鳴日は、1953年から1980年の観測値による平年値である。平年値は、日観測値から求める。

〔主な資料〕

1．気象庁，1982年日本気候表　その2　地点別月別平年値（1951～1980）
2．気象庁，生物季節観測（1953～1980）

3. 各地の気候特性

我が国の気候を大観すると、その大部分は中緯度の温帯に属し、年間を通じて湿潤で、大陸縁辺にあってモンスーンの影響を強く受け、四季の変化が明瞭であるといった特性があげられる。しかしながら、緯度差25°、経度差31°の広い範囲にわたる我が国では、複雑な地形と相まって、地域ごとに多彩な気候特性をもっている。気候の特性を表わす要素には、日照・気温・降水量・湿度・風・気圧などがあり、これらを総合的に分析することにより、各地の気候特性を把握することができる。

我が国の気象観測は、気象庁をはじめとして、農林水産省、建設省などの諸官庁、運輸交通機関、電力会社などの各事業所、大学、高校などの教育研究機関など、様々な主体によって実施されているが、気象庁を除くと、利水、保安、研究などの特定の目的のために行われることが多く、観測する気象要素は限られている。

気象庁は、気象業務法に基づいて気象業務を担当している国の機関で、全国的な観測網を持っている。本庁のほかに管区気象台６、地方気象台47、測候所99、海洋気象台４、航空地方気象台２、航空測候所９、空港出張所55などがあり、それぞれが定められた種類の観測を行っている。

気象観測は自動化が進み、現在では「地域気象観測システム」（通称アメダス*）が活躍している。このシステムは、気象状況をより的確に、よりきめ細かく、より迅速にとらえるため、全国約1300ヵ所の自動観測装置の観測データがオンラインで結ばれ、即時に配信されるもので、気象情報の収集および報知に威力を発揮している。

*アメダス（AMeDAS）：Automated Meteorological Data Aequisition System の略

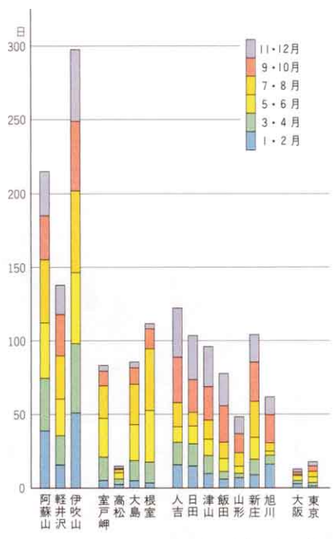
〔凡例と作図の要点〕

気温（最高・最低・平均）、相対湿度、降水量、日照時間は、1951年から1980年における国内各地の気象官署の観測値による平年値である。

〔主な資料〕

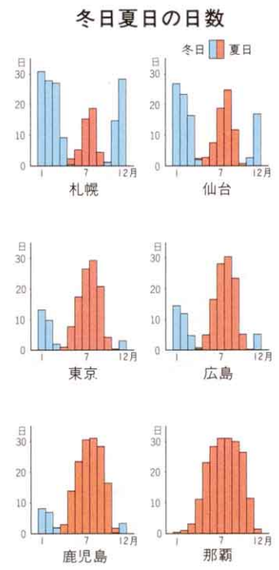
1．気象庁，1982年日本気候表　その2　地点別月別平年値（1951～1980）
2．気象庁，1988年今日の気象業務

霧の発生日数



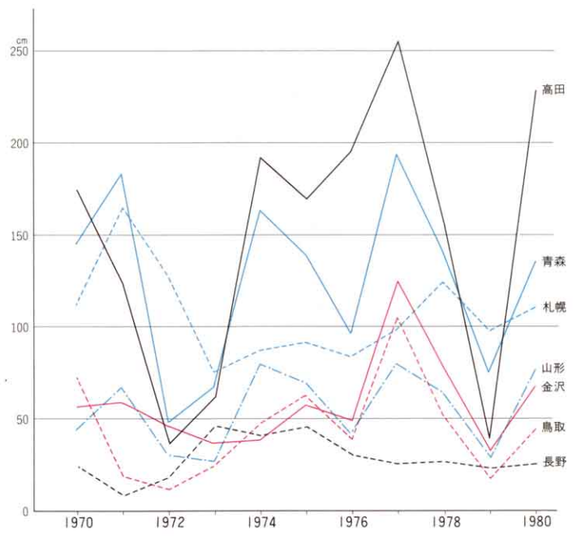
（日本気候表から作成）

冬日夏日の日数



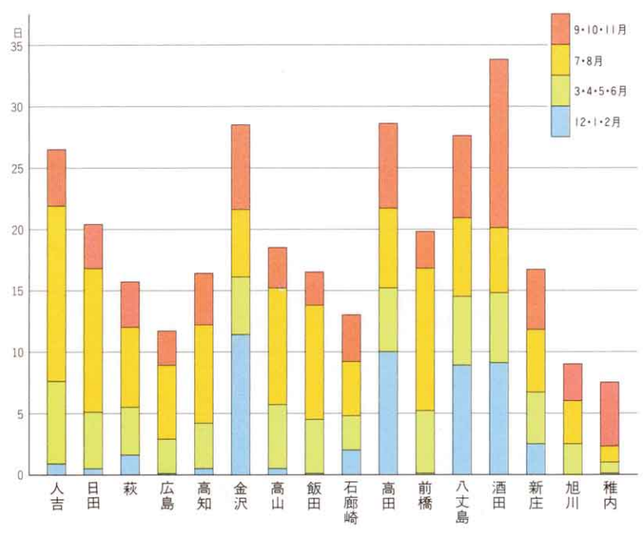
（日本気候表から作成）

最深積雪の経年変化

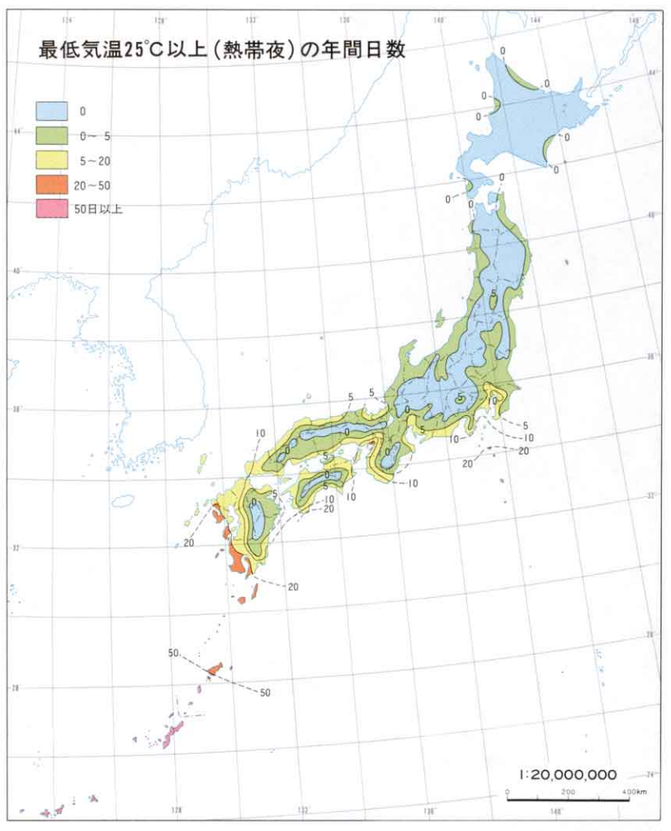


（気象庁年報から作成）

雷の発生日数

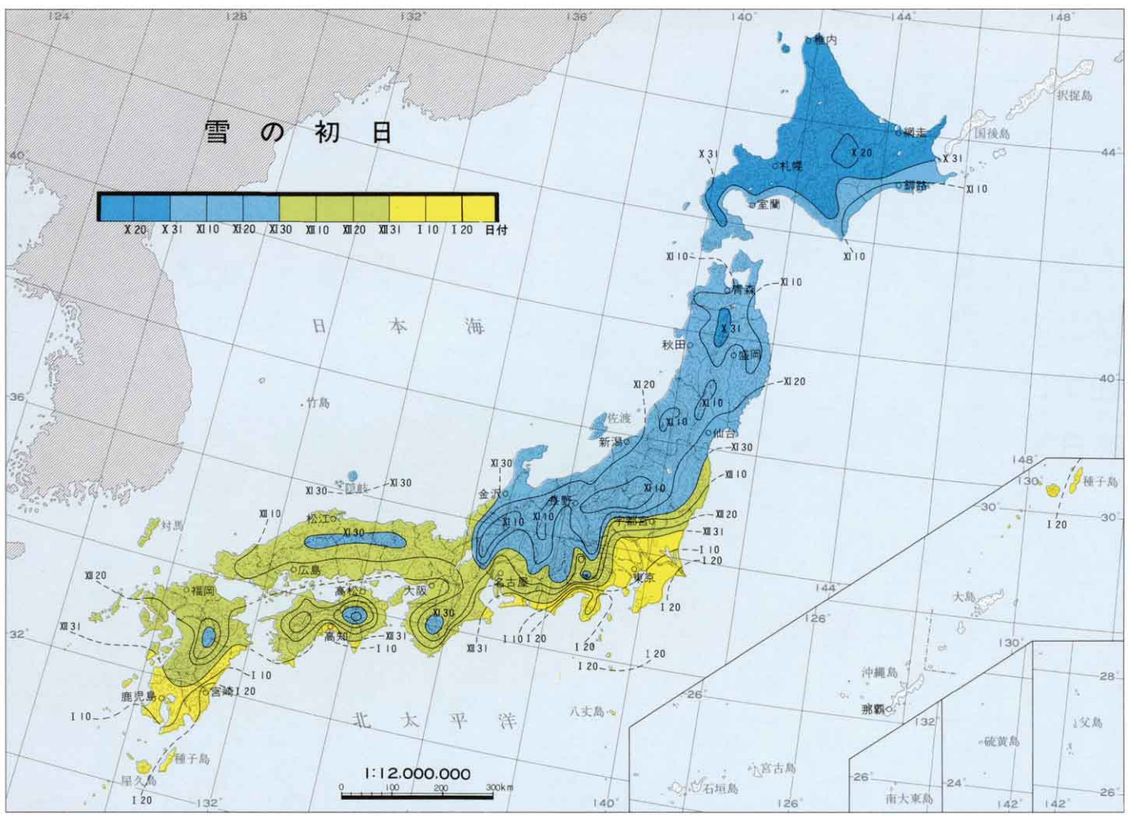


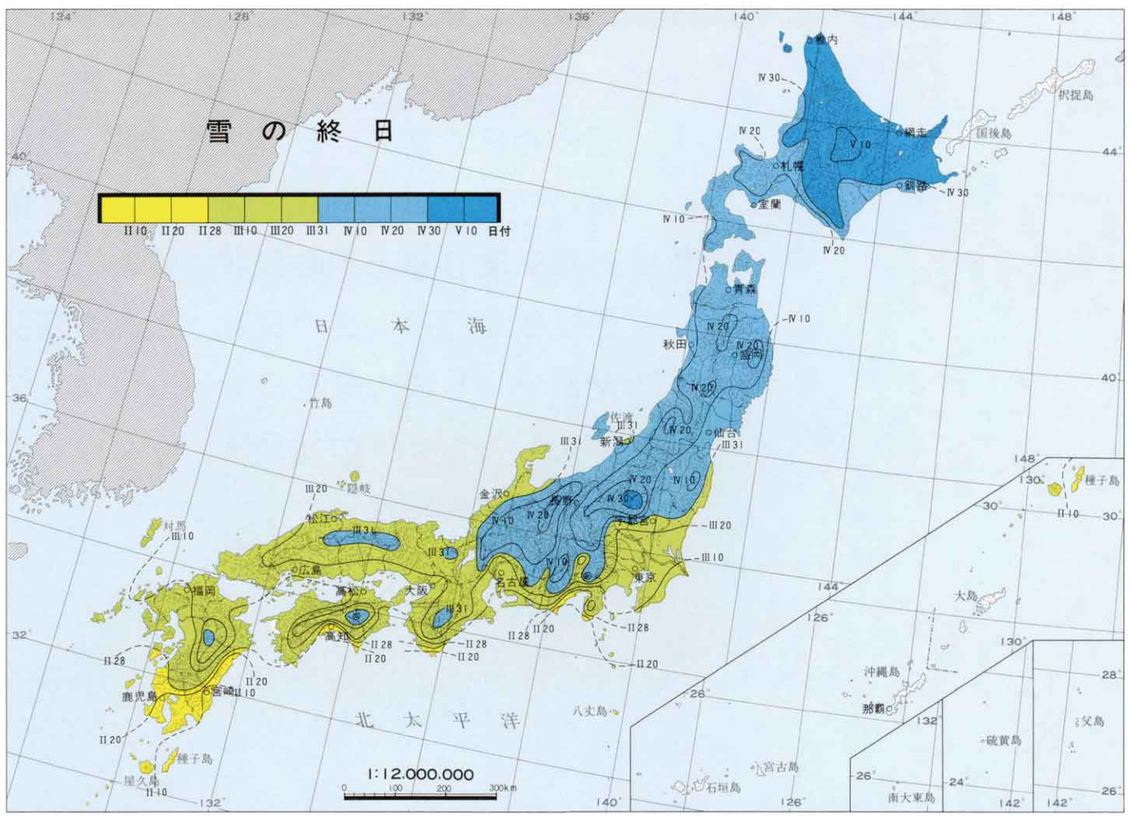
（日本気候表から作成）

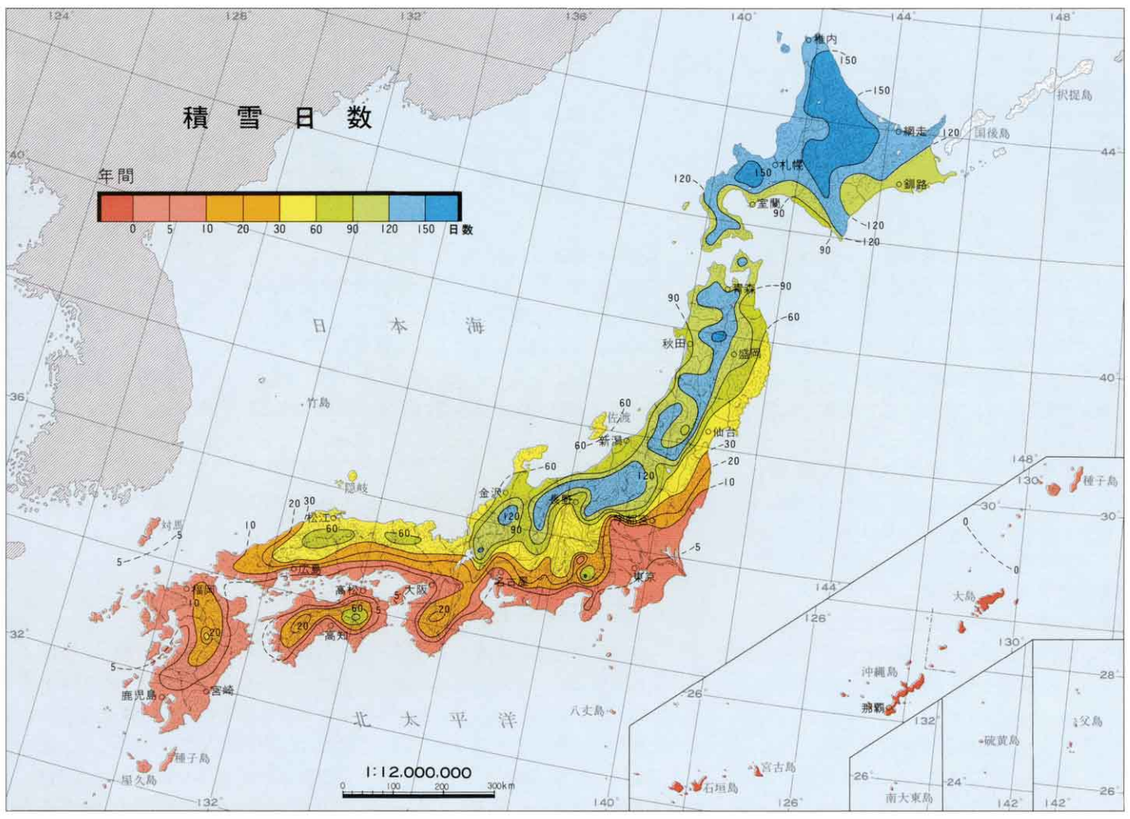


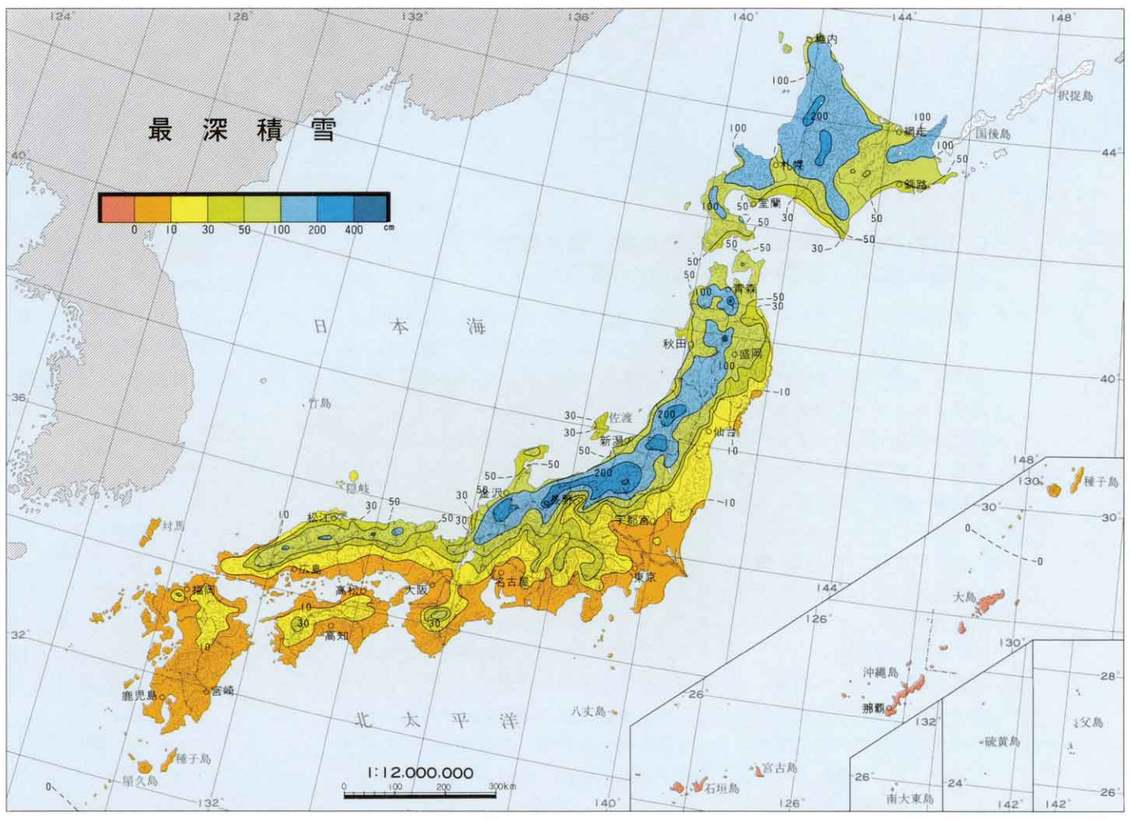
（気象庁年報から作成）

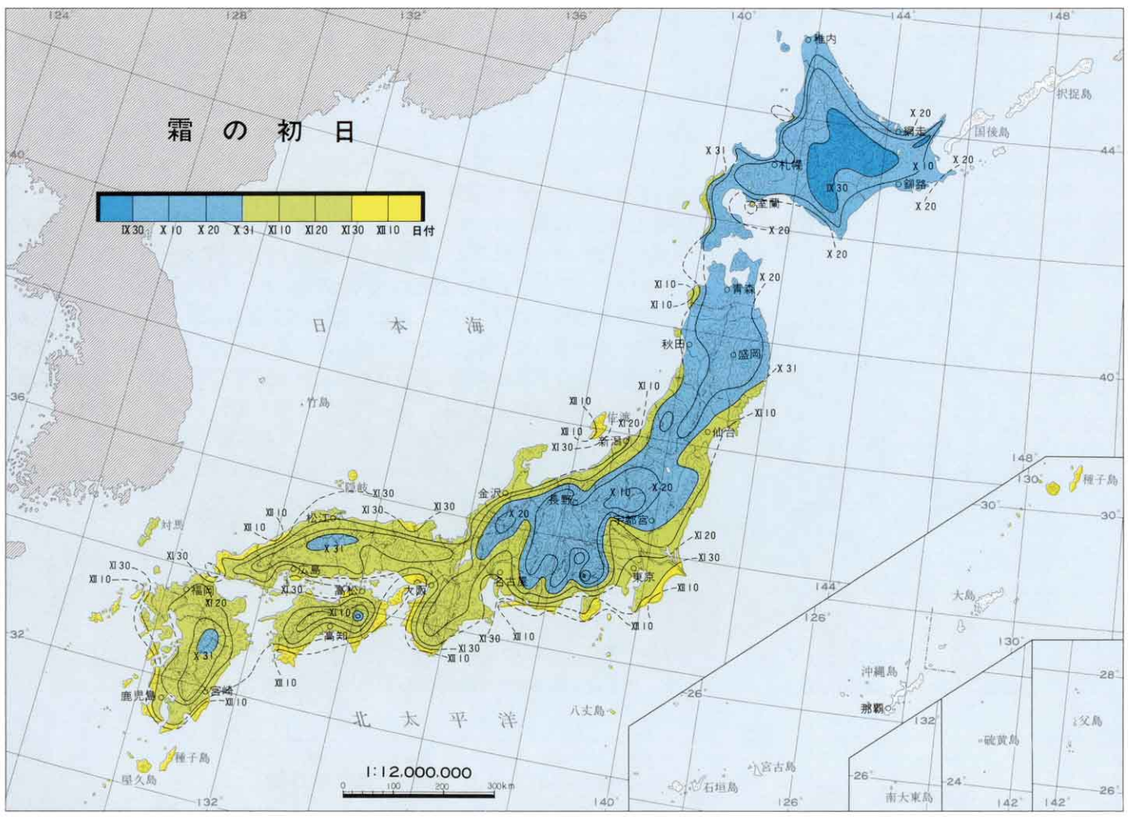
雪の初日．　雪の終日．　積雪日数．　最深積雪．　霜の初日．　霜の終日．　霧日数．　雷日数

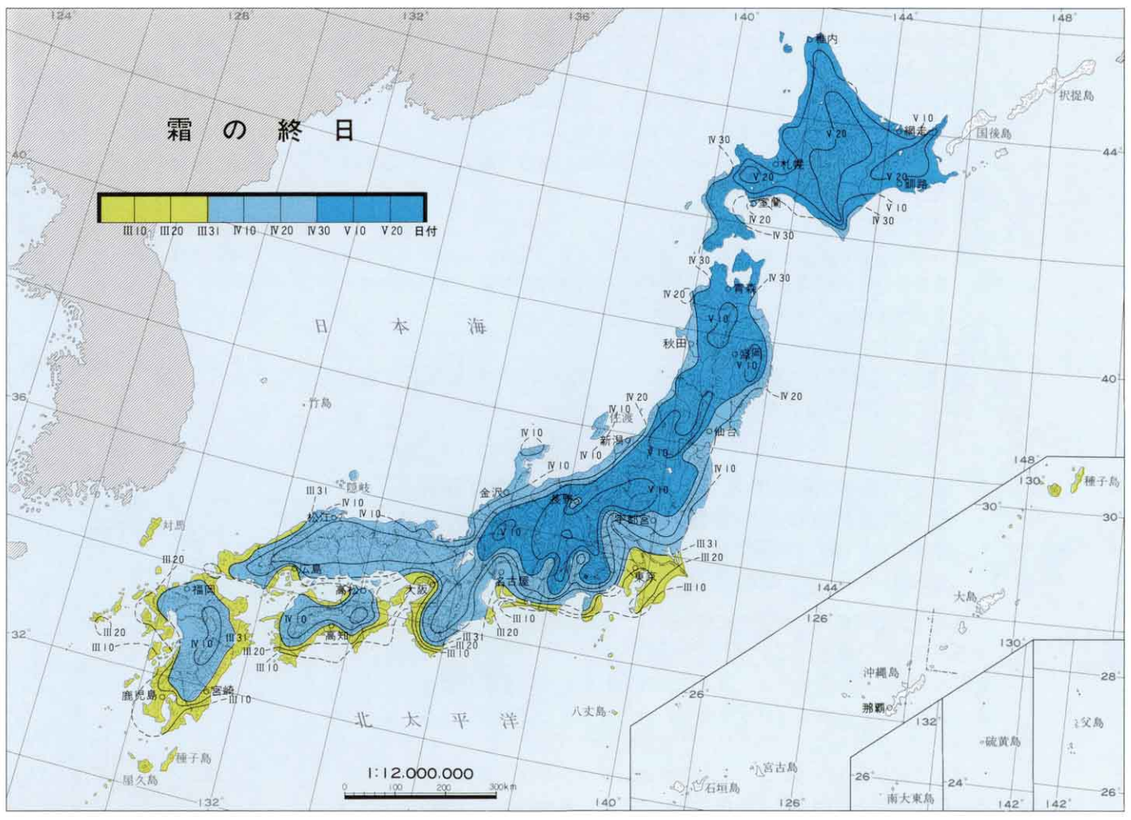


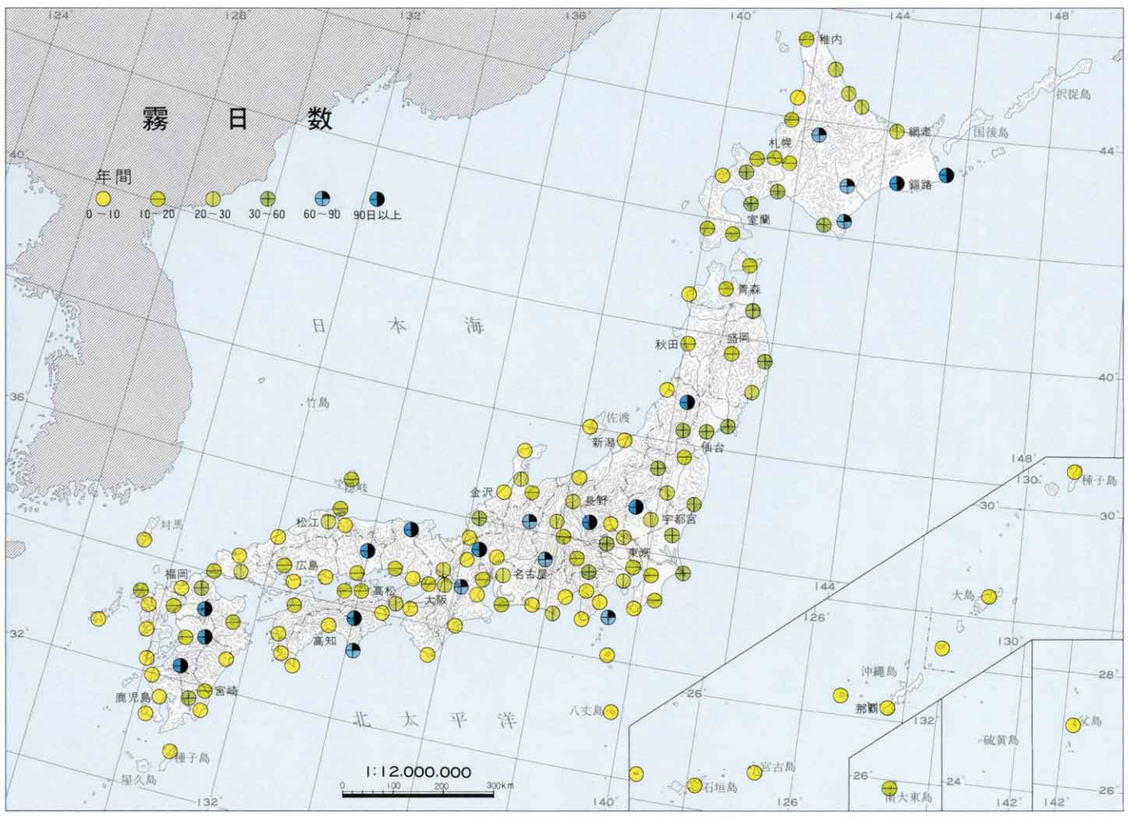


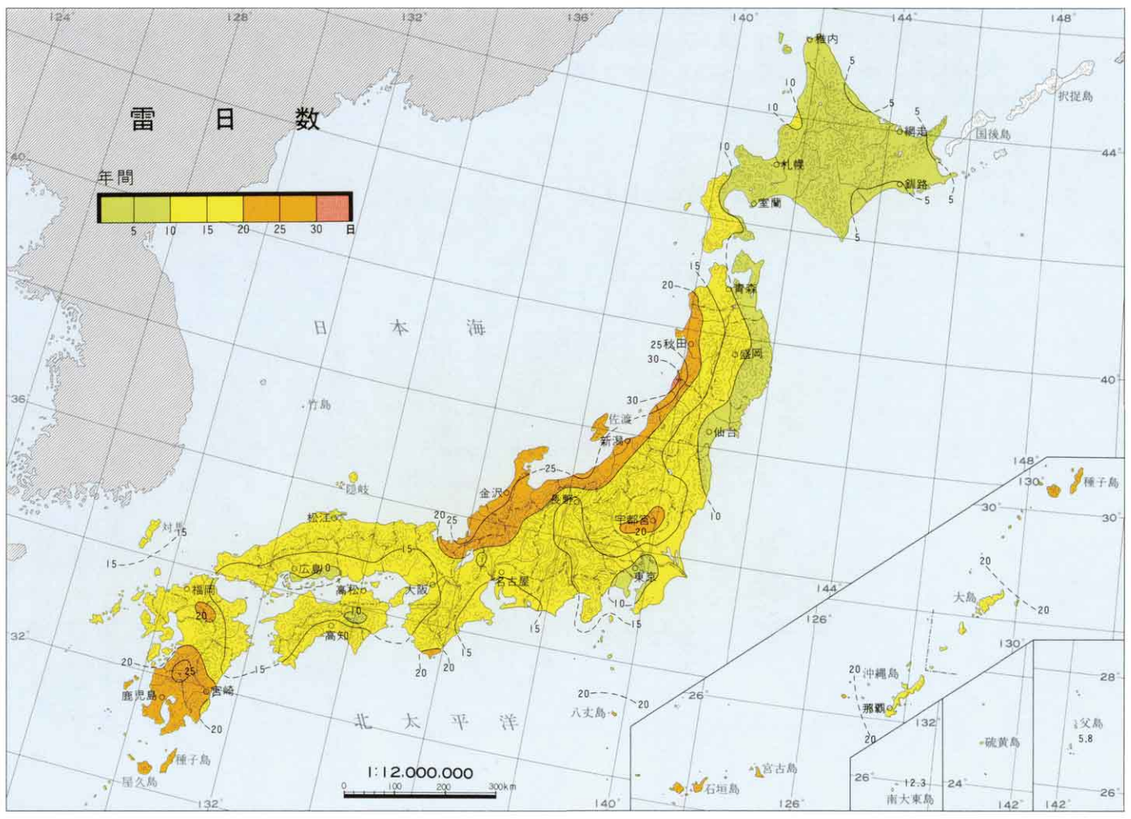


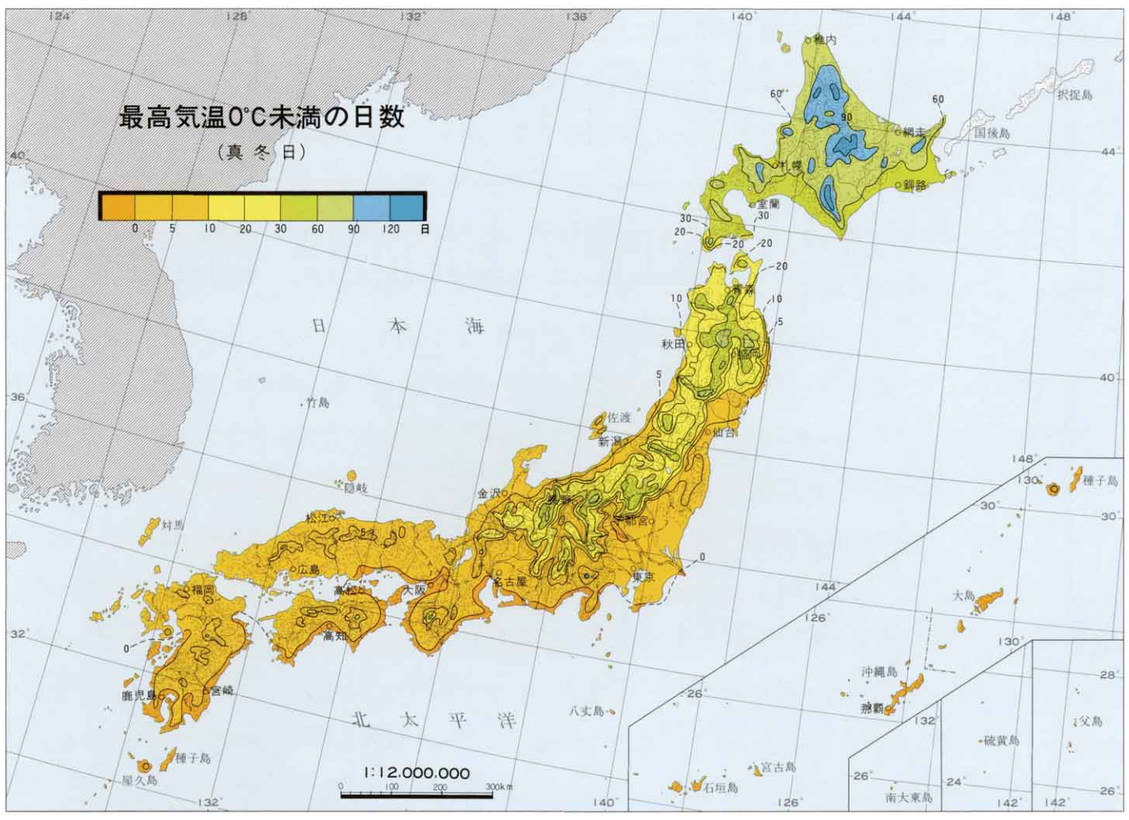


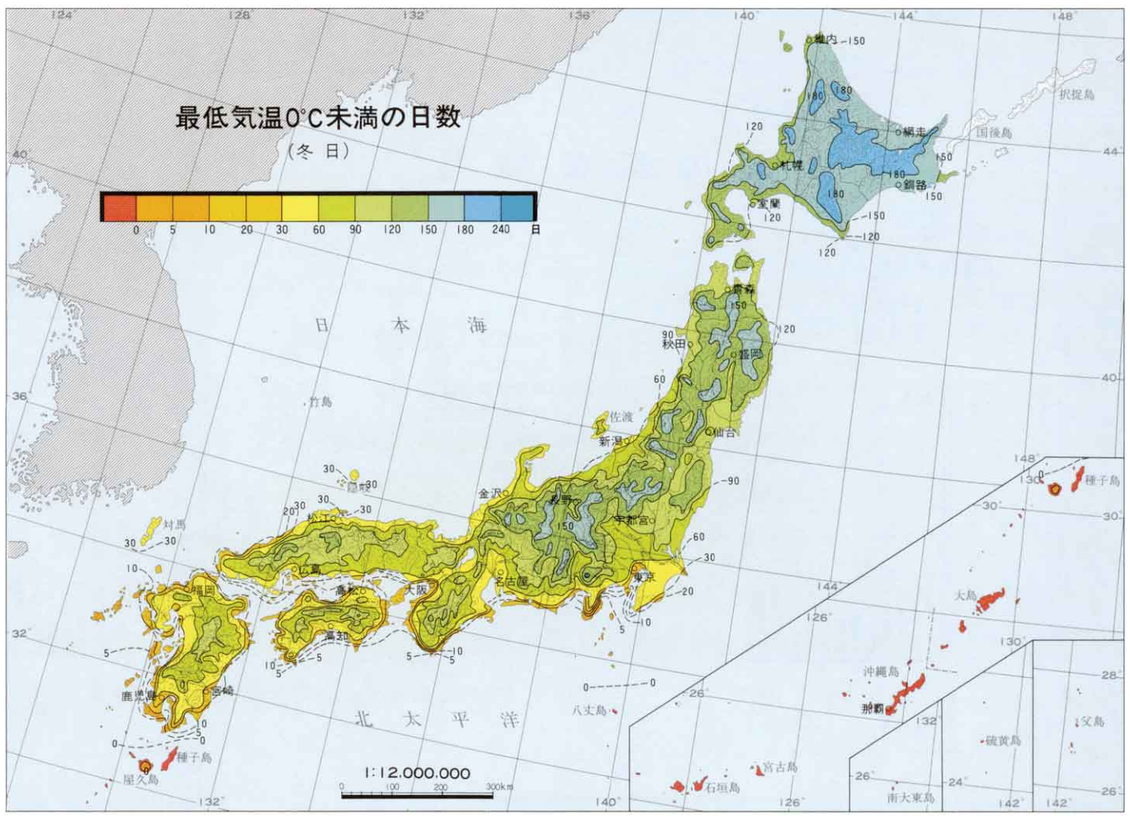


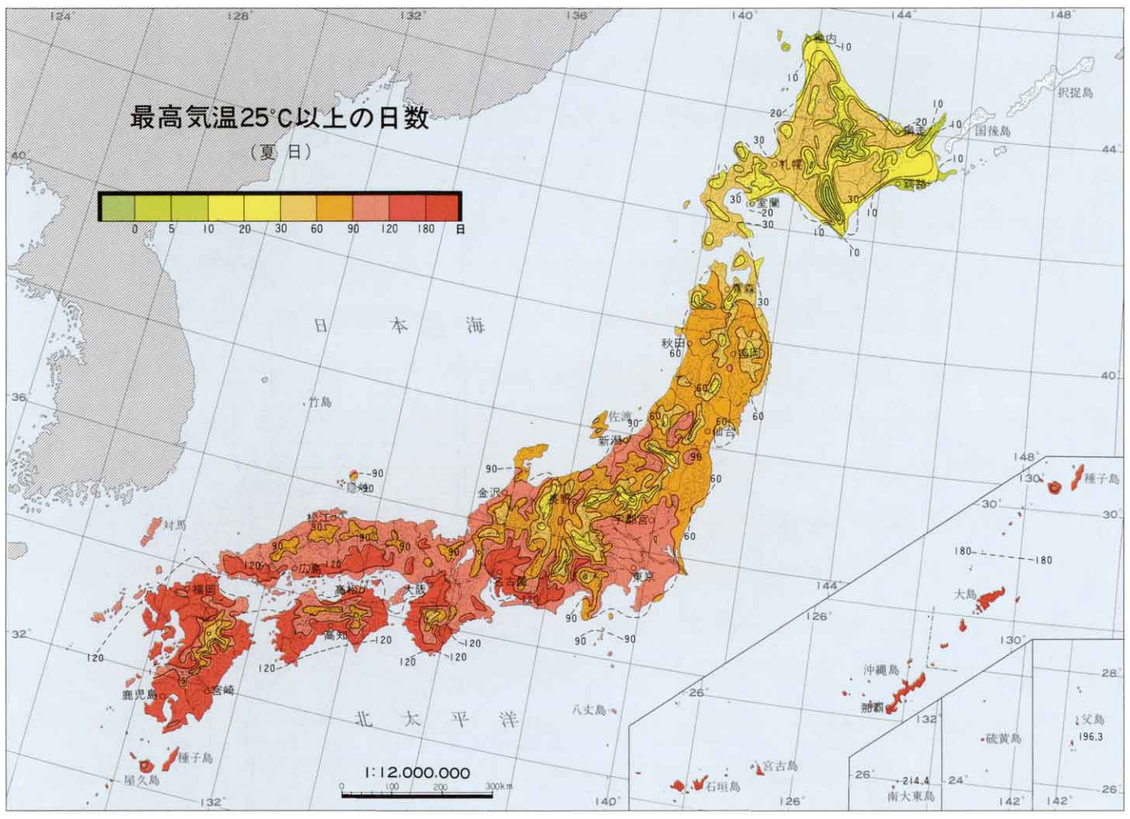


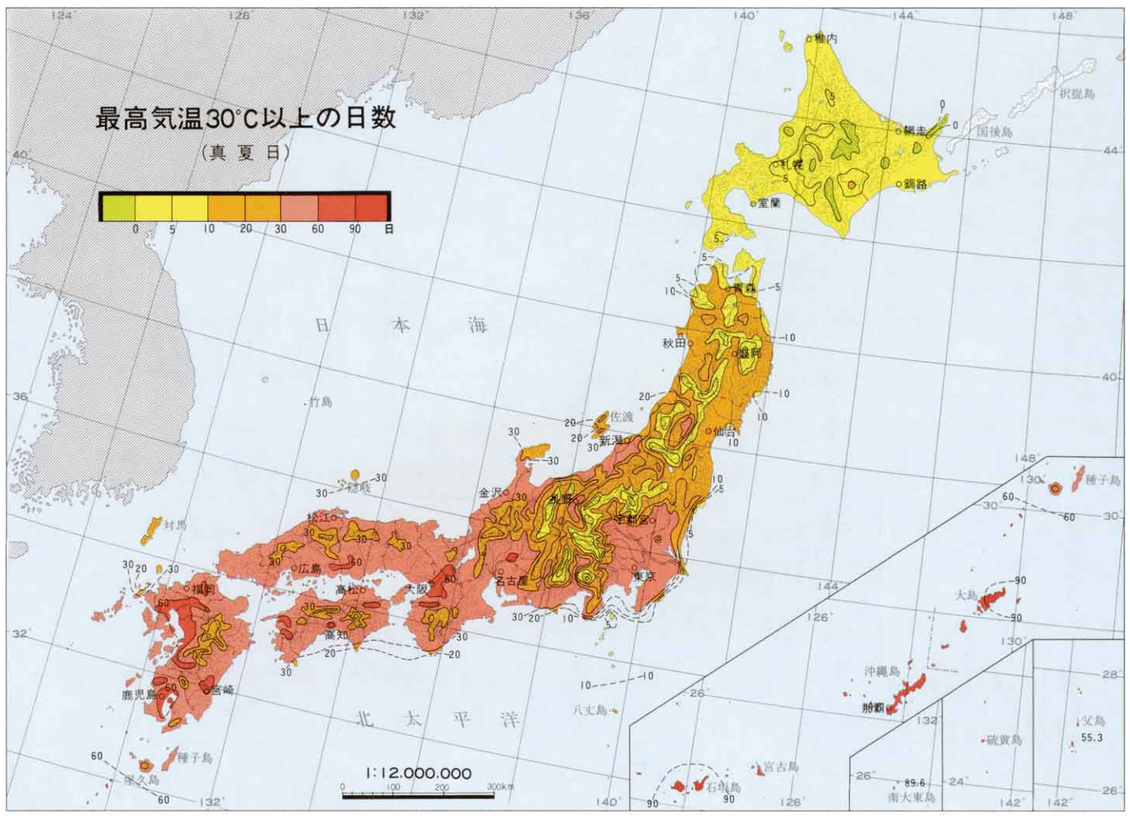


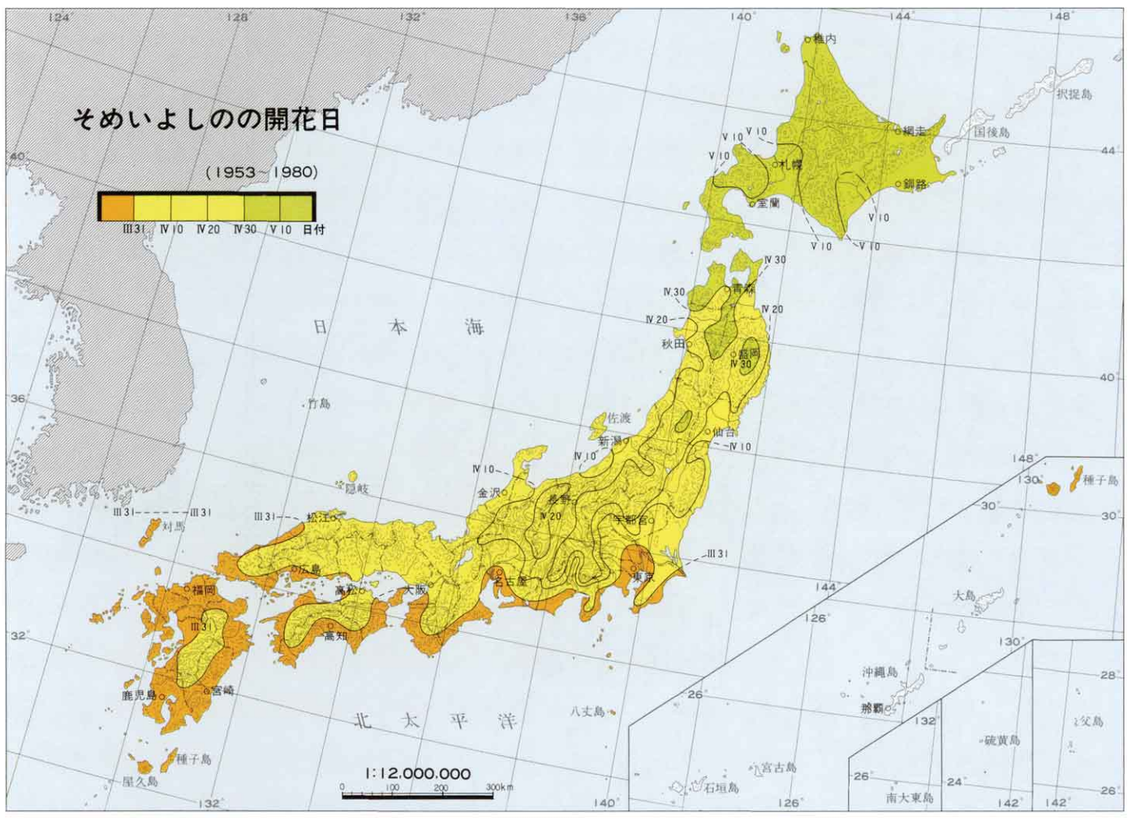


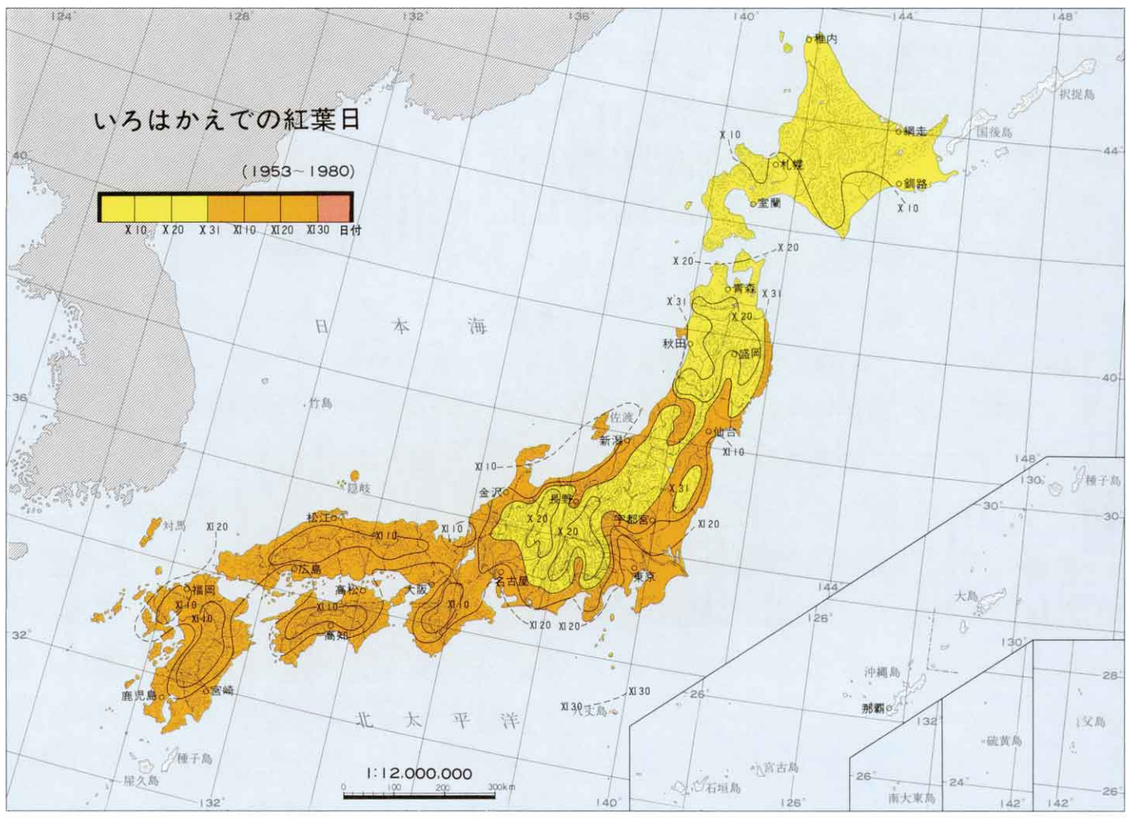

最高気温0℃未満の日数
（真 冬 日）
0 5 10 20 30 60 90 120 日
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000


最低気温0℃未満の日数
（冬 日）
0 5 10 20 30 60 90 120 150 180 240 日
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000

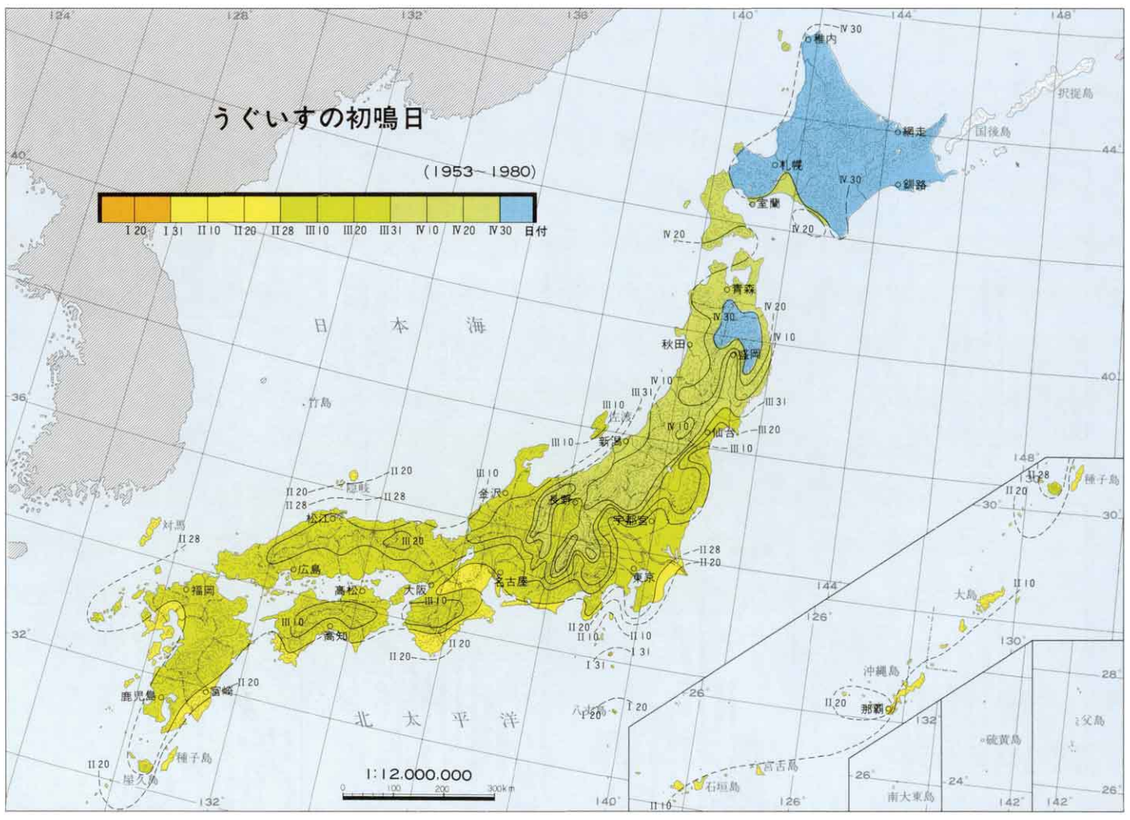

最高気温25℃以上の日数
（夏 日）
0 5 10 20 30 60 90 120 180 日
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000


最高気温30℃以上の日数
（真 夏 日）
0 5 10 20 30 60 90 日
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000

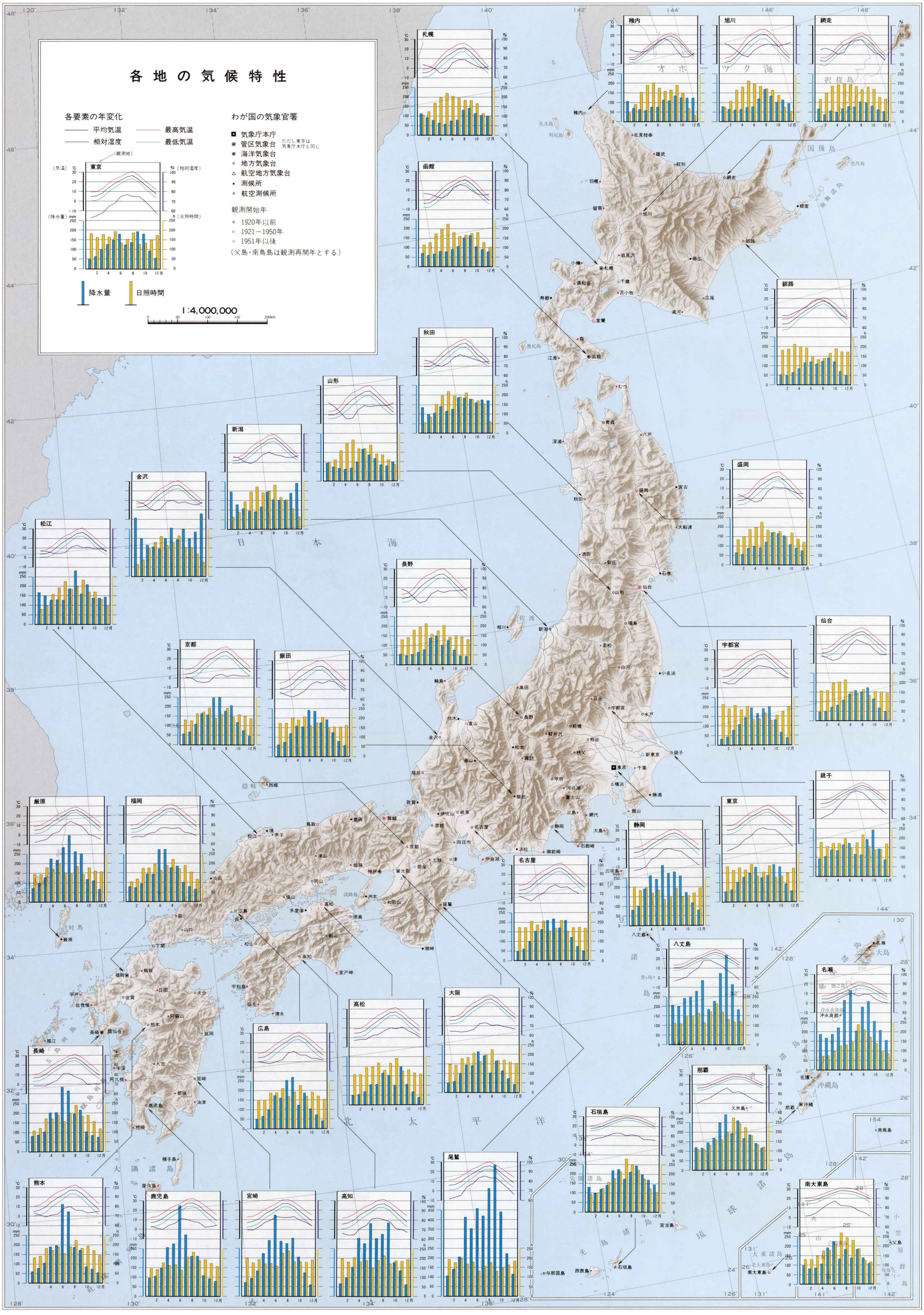

そめいよしのの開花日
（1953～1980）
Ⅲ31 Ⅳ10 Ⅳ20 Ⅳ30 Ⅴ10 日付
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000


いろはかえでの紅葉日
（1953～1980）
Ⅹ10 Ⅹ20 Ⅹ31 Ⅺ10 Ⅺ20 Ⅺ30 日付
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000

もんしろちょうの初見日
（1953～1980）
Ⅱ20 Ⅱ28 Ⅲ10 Ⅲ20 Ⅲ31 Ⅳ10 Ⅳ20 Ⅳ30 Ⅴ10 日付
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000


うぐいすの初鳴日
（1953～1980）
Ⅰ20 Ⅰ31 Ⅱ10 Ⅱ20 Ⅱ28 Ⅲ10 Ⅲ20 Ⅲ31 Ⅳ10 Ⅳ20 Ⅳ30 日付
日 本 海
北 太 平 洋
1:12,000,000

14.3


各地の気候特性
各要素の年変化
平均気温
最高気温
相対湿度
最低気温
(観測地)
東京
(気温) °C
% (相対湿度)
(降水量) mm
h (日照時間)
降水量
日照時間
1:4,000,000
0 50 100 150 200km
わが国の気象官署
気象庁本庁
管区気象台 ただし東京は気象庁本庁と同じ
海洋気象台
地方気象台
航空地方気象台
測候所
航空測候所
観測開始年
1920年以前
1921～1950年
1951年以後
(父島・南鳥島は観測再開年とする)
札幌
函館
稚内
旭川
網走
釧路
秋田
山形
新潟
金沢
松江
盛岡
仙台
宇都宮
銚子
東京
長野
飯田
京都
厳原
福岡
静岡
名古屋
八丈島
名瀬
那覇
大阪
高松
広島
長崎
熊本
鹿児島
宮崎
高知
尾鷲
石垣島
南大東島
南鳥島
日本海
北太平洋
オホーツク海
択捉島
国後島
色丹島
歯舞諸島
礼文島
利尻島
奥尻島
佐渡
隠岐
対馬
五島列島
大隅諸島
伊豆諸島
小笠原群島
琉球諸島
先島諸島
宮古島
与那国島
西表島
沖縄島
大島
種子島
屋久島